

まちづくり懇談会議事録

日 時：令和 3 年 11 月 3 日（水）18：30～19：45

場 所：杵臼公民館

出席者：9 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配付資料確認および日程説明

3. 懇談

（1）第 7 次総合計画の策定について（別紙 1・2 参照）

（2）自由懇談

4. その他（情報提供）

（1）国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（別紙 3 参照）

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：説明がありました人口ビジョン。ここに書いてある通りですが、若い人、将来の生産者ですから、令和 42 年度には 4,600 人、一つの推移が予定されていますけども、ここに書かれてある通りになってしまう恐れがある。今、日本はどこもこういった現象が起きているので、世界の人口は 70 億とか 60 億とかって言われてますけど、ひょっとして日本に外国の方が大勢入ってくる情景もないとは言えない状況に出てくるかなと思っているのです。そこでは文化とかいろんなことが変わってきて大変なことはないと思うのですが、色々事情が変わってくるのではないか、子どもを産めない方もいらっしゃるのです、言葉の表現がすごく難しいのですが、どのようにしたら多くの子どもさんが産める状況を作るというか、条件ですか。町民の皆さん、子どもからお年寄りまでアンケートを取ってみたいかなと思います。どうしたら人口が増えるかそういったアンケートもいいのではないかなと思っています。

町長：栗山町に限ったことではありませんけれども、日本全体的に高齢化が進展して人口減少時代にも入ったと言われております。東京だとか札幌とか都市部に人口が集中して、地方部が人口減少。これからは都市部も含めて、人口が減少していくだろうと、そういう見込みになっています。将来人口推計のところで、折れ線グラフで見えましたけど、栗山もその現象となってきましたが、今まで色々な対策打ってきました。高校生までの医療費の無料化や様々な子育て支援対策やってきまして、その効果が少しずつ出始めてきています。4 年前に、社会減と自然減と合わせて、1 年間で 292 人減少しました。3 年前には 220 人減少。2 年前には 187 人減少。去年は 160 人の減少です。今年 1 月か

ら 10 月まで 10 カ月ですけど、去年の 160 人を若干下回るのではないかとということで、減少幅が少なくなってきたことは、人口減に歯止めがかかりつつあるという状況になっています。国立社会保障・人口問題研究所で出してる人口推計は、ほとんどの町がこの通り進んでいます。そこに、第 7 次総合計画で何か効果的なものを打ち出して、この人口減を食い止めていくということをしていきたいと考えてまして、子どもを増やすとか、生産年齢人口の 15 歳から 64 歳ぐらいまでの働き盛りのところの分野を増やしていくための政策を今までやってきた、そういう子育て支援対策、ここはしっかり行っていきたいと考えています。これはいろんな町で競争し合ってるんです。分取り合戦を行っているようなもので、それでは根本的な解決にはならないと思ってます。産んで育てられる環境をしっかりと作っていくことが解決に繋がると思ってます。そのためには、国の政策も重要になってきます。我々がこれからまた更に掘り下げて考えて、栗山のこの町で子どもを産んでいただいて育てていただける環境を作れるような効果的なものをじっくり考えて、先手を打って考えていきたいと思っています。4 年間で人口減少幅が少なくなっていますが、唯一変わってないのが出生数なんです。これが伸びないんです。今年は特に、去年とコロナの影響もあってか不安があるので、ここ数年にはないぐらい少ないです。生まれる子どもの数が少ないので、ここを何とかしなければならぬかと思います。財政計画との整合も図りながら少し工夫したいと思っています。高校生までの医療費無料化、特別なものを除いて町内の医療機関だけに設定してますけど、町外まで拡大して支援するとか方法はあるかと思いますが、そこには財源が伴いますし、またそうすると、町内の医療機関との調整も出てきます。みなさんが町外で受けてしまっても困りますから、難しさはありますが、対策を考えていきたいと思っています。

町民：ゴミの広域処理は、令和 6 年から本格稼働に向けて進めることですが、広域になってサービスの低下という面で一つ心配になる所がありまして、広域になってまとめてごみ収集行きますよね。それで処理されて今まで通りのような回収というか、そういう心配はいらぬのか。あと、栗山の現在使ってる処理場との問題ですが、それを併用して使っていくのか。さらに、分別の内容ももう少し簡素化していただけたらいいのかなというふうに思いますが。説明会についてはこれからあるということなので、その辺も興味ある所なんですけども。

町長：内容については説明会の中でしっかり説明させていただきたいと思っています。今は町内だけの収集体制を組んで桜山の処分場に持って行ってる状況です。一部岩見沢の方で処理していただけてるものもありますが、それが根本的に変わります。収集体制が変わります。千歳市で建設される広域焼却施設は 2 市 4 町が使用することになりますので、栗山町が持っていける時間帯とか、そういった事の調整もこれからの作業になっていきます。そのような中で、埋め立て処分場ですが、広域的・効率的に今の焼却施設に続いて令和 11 年を目処に、広域的な埋め立て処分場も作る計画です。それまでの間は、今ある栗山の処分場を併用して使用していく、広域焼却施設で燃やした焼却灰を持ち帰って、栗山の処分場に埋める、そのような作業が出てきます。将来的には全て千歳の焼却施設と埋め立て処分場がセットになってできれば、そこで全部処理されますので、栗山町はそこに持っていくだけということになります。あと分別ですが、細かい分別の協力をいただけていますが、そこは燃やすことになりますので、生ゴミとかは分けてますが、今度是一緒になると思ってます。細かいところは今詰めていますので、地域の説明会でご説明させてい

ただきたいと思います。これだけのお金をかけて広域的にやっ払いこうとしているわけなので、町民サービスの低下には繋がらないようにゴミ処理行政をしっかり進めていきたいと思います。

町民：光回線の開通について、来年の3月までにどこまで進むのか。

総務課参与：光回線につきましては、年度内に工事が終わる予定で、総務省に手続きをするのが約2カ月程となります。その後、光回線の受付開始募集をかけます。実際皆さんが使用できるのが来年の夏ぐらいの予定となります。工事は年度内に終わる予定となっています。

町長：栗山町も95%程度光回線通ってたんですけど、その残りの5%が通ってなかったんですね。コロナの関係で子どもたちの教育の分野だとかで政策が打ち出されて、予算配分もついて、栗山町も5%の部分を通すことができるようになってきます。農村部の方からはご意見多かったんです。やっ払いそれが今進んでるっていうこととなります。今、デジタル化が国のほうで進められる中で、どんなことが町民にとってメリットとして出てくるのかとか。例えば遠隔医療とか、病院に行かなくても、スマホとかタブレットとかで、先生と診察ができるとか。色々な事が、デジタル化の推進によって、かなり時代も変わってくるのではないかと思います。後は、スマホの操作とか、例えば、相談できる窓口とか、高齢者のスマホ教室とか。デジタル難民を栗山から出さないようにしてもらいたいという意見もあります。

19：45 終了